

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-900	22-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Changes in Alcohol Consumption and Risk of Heart Failure: A Nationwide Population-Based Study in Korea 飲酒量と心不全リスクの変化：韓国における全国規模の一般集団を対象とした研究		
<b>執筆者</b>		
Yeo Y, Jeong SM, Shin DW, Han K, Yoo J, Yoo JE, Lee SP.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Environ Res Public Health. 2022 Dec 5;19(23):16265. doi: 10.3390/ijerph192316265.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール摂取、飲酒量の変化、コホート、心不全		36498339
<b>要旨</b>		
<p><b>背景：</b> アルコール摂取量と心不全発症との関連は依然として不明である。韓国の全国規模の一般集団を対象とした研究において、2 時点でのアルコール摂取量の変化を測定し心不全発症との関連を検討した。</p> <p><b>方法：</b> 韓国の国民健康保険データベースを用いて、2009 年と 2011 年の 2 回に国民健康診査を受けた参加者を対象とした。参加者を総アルコール摂取量に応じて 4 群に分類し（なし：0g アルコール/日；軽度：&lt;15g/日；中程度：15-30 g/日；多量：≥30 g/日）、また 2 回の健康診断の間の飲酒量の変化で次の 5 つのカテゴリーに分類した（禁酒者、持続者（最初の健康診断の飲酒量を維持した者）、増加者、減少者、中断者とした）。年齢、性別、喫煙状況、定期的な運動、社会経済的情報、併存疾患、Charlson Comorbidity Index、収縮期血圧、検査結果で調整した後、Cox 比例ハザードモデルを用いて、新規に心不全と診断されるリスク（ICD-10 コード I50 初回入院請求を主要評価項目とした）を算出した。</p> <p><b>結果：</b> 3,842,850 人を対象者とし、平均 6.3 年の追跡期間中に 106,611 人（3.0%）が心不全と診断された。禁酒者と比較して、軽度飲酒レベルまでの増加の人は、心不全リスクが低かった（aHR=0.91、95%CI：0.89-0.94）。飲酒レベルが多量レベルまで増加した人は、いずれも心不全リスクが高かった（軽度から多量へ（aHR = 1.19、95%CI：1.12-1.26）、中等度から多量へ（aHR = 1.13、95%CI：1.07-1.19））。また、アルコールを多量から中等度に減らすことは心不全リスクの低下と関連していた（aHR = 0.90、95%CI：0.86-0.95）。</p> <p><b>結論：</b> 本研究より、アルコール摂取量が軽度から中等度、多量へと増加することは、心不全発症リスクの上昇と関連していた。</p>		